

日本の曲

1

象の背中-旅立つ日
JULEPS

1. ある朝目覚めたら

神が待ってた

命に終わりが来ると

そっと知らされた

どうして僕だけが

旅立つのか？

運命のさざ波に

声は届かない

一番近くの

大事な人を

しあわせだったか？

それが気がかり

もしも僕がいなくなったら

最初の夜だけ泣いてくれ

君と僕が過ごした時を

思い出しながら

目送って。。。

2

象の背中-ボタン
タッチ
JULEPS

1. 君の寝顔を見て

ずっとそばにいて欲しいと

二十年以上も

僕は思い続けて来た

子どもだったはずの

君もいつしか恋をして

会って欲しい人と

僕の前で照れていた

ママは知ってたなんて

少しショックだったよ

許さないと

思ってたのか？

君がしあわせになればいい

世界で一番

愛しい人

僕の娘に

生まれてくれた

大事な大事な

宝物よ

今日から

彼が守るんだね

このバージンロードを

きみ うで く
君と腕を組みながら

あっという間だった

たか さこ ひび おも
高砂への日々を思う

ケーキをカットする

ふたり うれ がお
2人の嬉しそうな顔

ほほ えん
微笑みたいけれど

なみだ と
なぜか涙止まらない

よめ
パパのお嫁さんになる

い
ずっと言ってくれたね

かれ ぼく
彼は僕に

に
似てないけれど

きみ えら ひと
君が選んだ人ならいい

せ かい いち ばん
世界で一番

うつく
美しくて

ぼく し
僕の知らない

しん ふ
新婦のようだ

だい じ だい じ
大事な大事な

たから もの
宝物よ

それでも

きみ ぼく むすめ
君は僕の娘

せ かい いち ばん
世界で一番

いと ひと
愛しい人

ぼく むすめ
僕の娘に

う
生まれてくれた

だい じ だい じ
大事な大事な

たから もの
宝物よ

きょう
今日から

かれ まも
彼が守るんだね

せ かい いち ばん
世界で一番

いと ひと
愛しい人

う
生まれてくれて

ああありがとう

さい ご さい ご
最後に最後に

こえ か
声掛けよう

はじ い
初めて言えた

おめでとうと。。。

3

母である為に

阿部真央(Abe Mao)

わたし はは
1. 私があなたの母であるために
あなたが寂しい時
そばにいれないかもしれない
わたし はは
私があなたの母であるために
あなたの母はいつでも悪口言われ
てばかり
はは はは
母があなたの母であるために
あなたは傷つくかもしれない
はは はは
母があなたの母であること
あなたはいつの日か少し嫌になる
かもしれない
はは しあわ き
だけど母は幸せですあなたが来て
くれて
はは はは
あなたの母になれたこと母はとて
も嬉しいです
わたし はは かき
私はあなたの母である限り
いつでもあなたを守って味方でい
つづ
続けるつもり
りっぱ はは
立派なあなたの母になるために
わたし かき つ しょ
私はできる限りを尽くしていく所
ぞん
存です
はは はは
母はあなたの母になるために
ま じ め ちょ きん
真面目に貯金もはじめます

はは はは
母はあなたの母であること
せ たけ の
その背丈が伸びていくたびとても
ほこ かん
誇らしく感じます
はは しあわ
母は幸せです
あなたがいてくれて
はは はは
あなたの母になれたこと母はとて
うれ
も嬉しいです
ご はん お い ぜん ぶ
御飯の美味しいところは全部あな
あき た
たが先に食べてください
み こご さむ よる はは
身も凍えるような寒い夜には母の
ま
コートを着けてください
はは き れい き た よ つよ
母より綺麗で気立てが良くて強い
かのじょ つ き
彼女を連れて来なさい
と かく げん き
兎にも角にもどうかそのまま元気
とし かき
に歳を重ねて
ふ じ はは み と
無事母を看取ってください
はは しあわ き
母は幸せですあなたが来てくれて
はは はは ほん とう
あなたの母にしてくれて本当にあ
りがとう
はは しあわ
母は幸せですあなたがいてくれて
はは はは
あなたの母になれたこと
はは うれ
母はとても嬉しいです
はは しあわ
母はとても幸せです

4

母のうた

吉田山田(Yoshida Yamada)

1. 空いたミネラルウォーターのラベ

ルもないペットボトルに

煮出した麦茶入れる母の口うるさ

さが恋しいです

ホントは優しくしたくて何故だか

いつも出来なくて

駅まで向かう帰り道自分の幼さが

嫌になる

あと何年あと何回

あと何年あと何回

私が大人になり あなたの背を越

えた時は

照れたように笑いながら一体何を

想っていたのですか

トイレに貼ったカレンダー特に書

くこともないのに

私が帰るその日には真っ赤な丸を

描いてた

あと何年あと何回

あと何年あと何回

選ばないまま受け入れて足りない

まま寄り添いあって

手垢のついた月日が頑になっ

た心を解かしてゆく

白髪が少し増えたね シワもきっ

と増えたでしょうね

だけどこんなにも美しく笑える人

を私は知りません

あなたがもしもいつか私を忘れて

しまっても

私が覚えている私はずっとあなた

のワガママな子

幸せでいてくださいそれ

が私の幸せ

そんな風に思えるほど私も少し

大人になりました

嬉しそうに笑ってるあなたの歌

5

東京

手嶋葵(Teshima Aoi)

む まふ あした て まね
向こうで眩しい明日が手招いてい
る

1. 東京ビルの灯り

とうきょう あか
無数の眠れない理由が煌めいてい
る

あした く まえ かた つ し こと
明日が来る前に片付けたい仕事か
あると

ひとり よわ じ ふん
あなたは一人きりで弱い自分
と戦っている

だれ み
誰も見ていないとき

なに
何をしているかを

かみ さま み
神様はきっと見ていてくれる

とうきょう あか
ほら東京ビルの灯り
無数の眠れない理由が煌めいてい
る

あした く まえ なお き も
明日が来る前に直したい気持ちが
ある

み らい
さみしさで未来さえ

くも み め
雲って見えない目を

なみだ あら なか
涙ならそっと洗い流せる

とうきょう ほし き
ほら東京星は消えて

ち じょう まふ おも きら
地上は眩しい想いが煌めいている

とうきょう あか
東京ビルの灯り

む すう おむ り ゆう きら
無数の眠れない理由が煌めいて

しず あ そら
静かに明ける空の

1. 昨日の夜から君がいなくなっ
て24時間がたった
僕はまだ
一歩もそこには出ていない
マイペースでよく寝坊する君のこ
とを想って
5分早めた家の時計もう意味ない
な
たばこの嫌いな僕を気遣って
ベランダで吸ってたっけな
カーテンが揺れて目があつくなっ
た
もうそこに君はいない
「もっとちゃんと僕をみててよ、
もっとちゃんと」って
その言葉が君には重かったの？
「もっとちゃんと僕をみててよ、
もっとちゃんと」って
言わなければ君はここにいたかな
僕のはたぶん君がよく知って
る
眠たいときに体温があがる
キスはみじかめが好きってことも

そのとき思った僕は君のこと
どれくらい分かったんだろ
一番最初に浮かんできたのは
君の好きなたばこの名前
「もっとちゃんと君をみてれば、
もっとちゃんと」って
いまさら気づいてもおそいよな
「もっとちゃんと君をみてれば、
もっとちゃんと」って
今気づいたってなんの意味があん
だ
君が置いていったたばこ
僕の大嫌いなもののなにどうして
火をつけてしまった
君の匂いがしたのさ君の匂い
ひとくち吸ってしまった
でもやっぱりむせた
「もっとちゃんと僕をみててよ、
もっとちゃんと」って
言わなければ君はまだここにいた
かな
「もっとちゃんと君をみてれば、
もっとちゃんと」って
少し苦い君の匂いに泣けた

1. あたしあなたに会えて本当に嬉しい

いのに

あたり前のようにそれらすべてが

悲しいんだ

今痛いくらい幸せな思い出が

いつか来るお別れを育てて歩く

誰かの居場所を奪い生きるくらい

ならばもう

あたしは石ころにでもなれたなら

いいな

だとしたら勘違いも戸惑いもない

そうやってあなたまでも知らない

ままで

あなたにあたしの思いが全部伝

わってほしいのに

誰にも言えない秘密があって嘘を

ついてしまうのだ

あなたが思えば思うよりいくつも

あたしは意気地ないのに

どうして、どうして、どうして

消えない悲しみも綻びもあなたと

いれば

それでよかったねと笑えるのがど

んなに嬉しいか

目の前の全てがほやけては溶けて

ゆくような

奇跡であふれて足りないや

あたしの名前を呼んでくれた

あなたが居場所を失くし彷徨うく

らいならばもう

誰かが身代わりになればなんて思

うんだ

今細やかで確かな見ないふり

きっと繰り返しながら笑い合うん

だ

何度誓っても何度祈っても惨憺た

る夢を見る

小さな歪みがいつかあなたを呑

でなくしてしまうような

あなたが思えば思うより大げさに

あたしは不甲斐ないのに

どうして、どうして、どうして

お願い、いつまでもいつまでも超

えられない夜を

超えようと手をつなぐこの日々が

続きますように

閉じた臉さえ鮮やかに彩るために

そのために何ができるかな

あなたの名前な まえ よんを呼んでいいかな
産うまれてきたその瞬間しゅんかんにあたし
「消きえてしまいたい」って泣なき喚わめ
いたんだ
それからずっと探さがしていたんだ
いつか出で会あえる、あなたのことを
消きえない悲かなしみも綻ほころびもあなたと
いれば
それでよかったねと笑わらえるのがど
んなに嬉うれしいか
目めの前まえの全すべてがぼやけては溶とけて
ゆくような
奇跡きせきであふれて足たりないや
あたしな まえ よの名前を呼んでくれた
あなたな まえ よの名前を呼んでいいかな

8

パレット

サイダーガール

1. 愛^{あい}だ恋^{こい}でもういいや遠^{とう}ざけてく
 ハートは煤^{すす}けてみえないな
 きっと待^まっているんだ僕^{ぼく}のための
 ありきたりなラブソングも一興^{いっきよう}
 きらめく色^{いろ}はどこにある
 誰^{だれ}にも気^きづかれない部分^{ぶぶん}
 白黒^{しろくろ}の僕^{ぼく}をあなたに知^しってほしく
 て
 少し^{すこ}とげのある言^{こと}葉^はも
 いつもの癖^{くせ}やしぐさにも
 一喜^{いっき}一憂^{ちゆう}してまたわからなくなっ
 た
 またねと手^てを振^ふって
 一人^{ひとり}きりどうし
 うまく言^いえずもどかしいな
 あなたの目^めに映^{うつ}るこの姿^{すがた}が
 消^きえることがこんなにも苦^{くる}しいと
 は
 ああだこうだ言^いい合^あってごまかし
 たら
 ホントのホントはみえないな
 愛^{あい}はとうにハートに結^{むす}んである
 ありきたりなラブソングも一興^{いっきよう}

うれしそうに笑^{わら}う横^{よこ}で
 泣^なきそうにからかう僕^{ぼく}を
 夕暮^{ゆうぐ}れのチャイムが
 不器用^{ふきよう}に隠^{かく}したんだ
 素直^{すなお}になれないから
 せめて優^{やさ}しくありたい
 醜^{みにく}さも美^{うつく}しさもごちゃ混ぜ^まにして
 染^そめ上^あげてく
 あなたの目^めに映^{うつ}るこの姿^{すがた}が
 消^きえることがこんなにも苦^{くる}しいと
 は
 ああだこうだ言^いったってわかって
 いる
 ずっと待^まっているんだ...
 Bad endにone two さんしごBang!
 愛^{あい}だ恋^{こい}だ言^いい合^あって握^{にぎ}りしめた
 その手^てはぎゅっと離^{はな}れないな
 愛^{あい}はとうにハートに結^{むす}んである
 ありきたりなラブソングも一興^{いっきよう}

9 エイプリル

mol-74

1. 綺麗な映画をみたあとにふと君を

思い出した

あの日をなぞれば何となくまた戻

れそうになって

なった

線路沿い

変わらない街並みと匂い、変わっ

た僕だけがいる

屁理屈並べても戻れない日々をた

だただ嘆いた

弱く春風が包む

曖昧に

ねえ

エイプリル

僕は変わった？

エイプリル

君は変わった？

いつもいつまでも続いていくよう

な気がしていた午後

奇跡のように出会って

必然のように別れて

映画みたいにはいかない結末に僕

は何を想う

例えば誰かのイエスとノーに惑わ

されるのは嫌だから

誰でもない、代りのない僕自身の

基準で生きていたい

強く春風が揺らす心

ねえ

エイプリル

僕は変わった？

エイプリル

君は変わった？

いつもいつまでも続いていくよう

な気がしていた午後

奇跡のように出会って

必然のように別れて

映画みたいにはいかない結末に僕

は何を想う

誰かの幸せを願う程僕優しくなく

て

せめて僕だけとは思うのはおかし

いのかな

ねえ

エイプリル

僕は変わった？

エイプリル

君は変わった？

いつもいつまでも^{つづ}続いていこう

な^き気がしていた^{ごご}午後

奇跡^{きせき}のように^で会^あって

必然^{ひつぜん}のように^{わか}別れて

映画^{えい}みたい^がには^{けつまつ}い^{はく}かない結末に僕

は

なに^{おも}を^{おも}う

なに^{ねが}を^{ねが}う

遅^{おそ}すぎたかな

わら^{わら}笑^{わら}ってくれるかな

10 恋人ができたんだ

My Hair is bad

1. 恋人ができたんだ

本^{ほん}気^きで^す好^{おも}き^こと思^{おも}う^こ子^こなん^だ

君^{きみ}の^{ちょうし}調^し子^しは^{どう}どう？君^{きみ}の^{ちょうし}調^し子^しは^{どう}どう

だい？

こい^{びと}恋^{こい}人^{びと}が^{びと}で^{びと}き^{びと}た^{びと}ん^だだ

君^{きみ}に^には^に似^にて^にも^に似^につ^にか^にない^にん^だ

君^{きみ}の^{ちょうし}調^し子^しは^{どう}どう？君^{きみ}の^{ちょうし}調^し子^しは^{どう}どう

だい？

こい^{びと}恋^{こい}人^{びと}が^{びと}で^{びと}き^{びと}た^{びと}ん^だ

先^{さき}の^{かんが}こ^{かんが}とも^{かんが}考^{かんが}え^{かんが}て^{かんが}る^{かんが}ん^だ

君^{きみ}の^{ちょうし}調^し子^しは^{どう}どう？君^{きみ}の^{ちょうし}調^し子^しは^{どう}どう

だい？

こい^{びと}恋^{こい}人^{びと}が^{びと}で^{びと}き^{びと}た^{びと}ん^だ

遊^ゆ園^{えん}地^ちに^{いっしょ}も^い一^い緒^いに^い行^いっ^いた^いよ

君^{きみ}の^{ちょうし}調^し子^しは^{どう}どう？君^{きみ}の^{ちょうし}調^し子^しは^{どう}どう

だい？

わ^{わか}か^{わか}れ^{はな}ると^に離^{ちが}れる^{ちが}は^{ちが}似^{ちが}た^{ちが}よう^{ちが}で^{ちが}違^{ちが}う

みたいだ

僕^{ぼく}ら^{ふたり}も^{ふたり}二^{ふたり}人^{ふたり}と^{ふたり}呼^よば^よれ^よて^よた^よね

出^で会^あっ^あて^あし^あま^あった^あ通^{つう}じ^あ合^あっ^あて^あし

まった

それは^け消^けせない^けけど

奪^{うば}っ^{うば}て^{うば}し^{うば}ま^{うば}った^{うば}奪^{うば}わ^{うば}れ^{うば}て^{うば}い^{うば}った

こころ かえ おむ
心を返してもう眠ろう
まち ちが おも た
街ですれ違ったって思い出したっ
て
はなし
話かけないでね
こい うす あい のこ
恋は薄まってでも愛はまだ残って

いるよ
もう会えないよ
こい ひと
だって恋人ができたんだ
きみ し
でももしも君を知らなかったら
いま こい ひと す
今の恋人も好きになってなかった

んだろう
かお さい はな かた す もの
顔も歳も話し方も好きな物さえも
ちが
違う

ばん ごう した き ば しょ しゃ しん
番号も下着の場所も写真も
ろく が
録画していたあのドラマも
おほ
もう覚えていなくてもいいのに
こい ひと
恋人ができたんだ
きみ き
君からちゃんと聞いていないよ
しあわ
どうか幸せに
あい あ つな
愛し合ってしまった繋がりってし

まった
け
それは消せないけど
うば うば
奪ってしまった奪われていった
こころ かえ おむ
心を返してもう眠ろう
じ かん た おも た
時間が経って思い出せなくなって
わす
忘れてもいいよね

こい うす あい のこ
恋は薄まってでも愛はまだ残って

いるの？

もう会えないよ

ぼく こい ひと
僕ら恋人ができたんだ

1. 暖かい春の光の中を 野球少年が

はし
走っていくよ

きよ はら せ お た
清原モデルのバット背負って立ち

こ さか みち のほ
漕ぎで坂道登っていくよ

しょうらい め や きゅうせん しゅ とうきょう
将来の夢はプロ野球選手東京ドーム

きょ じん
ム巨人のエース

いま ほ けつ う ま
今は補欠けどきっと上手くな

ぎゅうにゅう の からだ
る牛乳飲んで体もでかくする

で し あい みず く こえ た はる
出れない試合も水汲み声出し遙か

ひざ つよ まなざ
に日差しより強い眼差し

り くつ まえ き も あふ
理屈の前に気持ちが溢れてるベン

きみ かかや
チにいても君は輝いてる

む り だ きゅう む ちゅう と つ
無理めな打球夢中で飛び付けピッ

チャーゴロでもヘッドスライ

ディング

ユニフォームは汚して来なさいマ

マのドレスコードを^{まも}守ってる

どのツラ^さ下げてどこへ向かうの？

けっ か てき うそ
結果的には嘘つきじゃねえ

の？

どのツラ^さ下げてどこへ向^むかうの？

たれ き づ おと な
誰もが気付けば大人になった

あれからどれくらいの日々が^{ひび}^す過ぎ

じん　せい　　　たび　　　　　　　　　　　　　　　　　うそ

た？人生は旅だそんなのは嘘

おれ　　い
だ俺はどこにも行けないじゃ

ないか

なが うえ ひび
 流れるベルトコンベアの上で日々

すべ はこ ふ ひん
を滑らせ運んでいくよ部品を

つく　ぶ　ひん
作れ部品になった

身近で容易い欲に溺れたポケット

こ ぜに
の 小 銭 で ア ダ ル ト ビ デ オ

はだか おお また ひろ こ むかし ゆめ
裸でで大股広げるあの子の昔の夢

はどんなだろうか

家族恋人はいるんだろうかー発掘

いと おも あさ
いた後に思う浅はかなエゴだ

おれ おな とし
俺と同じ年のメジャーリーガー

うみ　　む　　はっしょうり　あ
海の向こうで初勝利上げた

まるで自分のことのように街もテ

おお さわ
レビも大騒ぎしてる

どのツラ^さ下げてどこへ向^むかうの？

結果的には嘘つきじゃねえ

の？

どのツラ^さ下げてどこへ向^むかうの？

たれ きづ おと な
誰もが気付けば大人になった

どのツラ^さ下げてどこへ^む向かうの？

けっ か てき うそ
結果的には嘘つきじゃねえ

の？

どのツラ^さ下げてどこへ向かうの？

描いた分^{か ふん き}消えてなくなった

俺^{おれ}より俺^{おれ}を信じてた女^{しん}笑顔^{おんな え が 笑}は余裕^{よ ゆう}

で言葉^{こと ば}を超えた

出会^{で あ}った時^{とき}から5年^{ねん}が経^たっても変^かわ

らぬ愛^{あい}でそばにいてくれた

あなたはMOROHA^うが売^うれますよ

うに俺^{おれ}はしといてねご飯^{はん}の用^{よう}

意

ライブ^{り ゅう}理由^{たんじょう}に誕生^び日^{ほう}放置^ちクリスマ

スもサンタ^{けん り}の権利^{ほう き}を放棄

笑^{わら}えるくらいに出^でない結果^{けつ か}も心配^{しん ぱい}

ないって支^{ささ}えてくれたあなた

優^{やさ}しさが嬉^{うれ}しかった反面^{はん めん}どうにも

苦^{くる}しくなった

焦^{あせ}れは焦^{あせ}る程^{ほど}道^{みち}は狂^{くる}う癖^{ひか}みや妬^{ねた}み

で歪^{ゆが}んでく目^め付き

どす黒^{くろ}い 想^{おも}い 底^{そこ}知^しれぬ闇^{やみ}呪^{のろ}い

怨^{うら}み 怒^{いか}り その果^はてには

お前^{まえ}さあ本^{ほん}当^{とう}の事^{こと}言^いってみ？

お前^{まえ}も腹^{はら}じゃ笑^{わら}ってんだろ？

バカ^いにしてんだろ？言^いえよ言^いえよ

溢^{あふ}れたゴミ箱^{ばこ}の底^{そこ}の方^{かた}にあなた

が涙^{なみだ}拭^ふいたティッ^{ティ}ッ^ッシ^シュ^ュがある

食^たべてやろうかと思^{おも}いましたか？

その資格^{し かく}がないからやめまし

た

団地^{だん ち}の灯^{あか}りが眩^{まぶ}しすぎて洗濯^{せん たく}物^{ぶつ}が

風^{かせ}になびいてる

俺^{おれ}の叶^{かな}わなかった夢^{ゆめ}を誰^{だれ}か^{いま}が今^{かな}叶

えてる

ビニール袋^{ふくろ}飛^とび出^だした ネギ^{ネギ}や^やが

ま口^{ぐち}抱^{かか}えて帰^{かえ}る二^{ふたり}人は

今^{こん}夜^やは記^き念^{ねん}日^びだからイタリ^{いた}アン痛^{いた}

みや不安^{ふ あん}スー^すプ^ぷの中^{なか}で溶^とかす

朗^{ほが}らかな笑^えみ好^すき故^{ゆえ}の涙^{なみだ}時^{とき}にはイ

ライ^{ライ}ラ^ラが積^つもり積^つもっても

愛^{あい}せ

ずっと愛^{あい}せ

さよならどうか元^{げん}氣^きで

どのツラ^さ下げてどこへ向かうの？

結果^{けつ か}的^{てき}には嘘^{うそ}つきじゃねえ

の？

どのツラ^さ下げてどこへ向かう

の？自^{みずか}ら選^{えら}んで嘘^{うそ}にしたんだ

どのツラ^さ下げてどこへ向かうの？

結果^{けつ か}的^{てき}には嘘^{うそ}つきじゃねえ

の？

どのツラ^さ下げてどこへ向かうの？

描^かいた分^{ふん き}消えてなくなった

それでもそのツラ^さ下^{ある}げて歩いてい
けよ最後^{さいご}は嘘^{うそ}になるなよ
ラッ^ぬプ^ほ抜きで惚^{かのじょ}れてくれた彼女よ
どうか俺^{おれ}抜き^ぬで幸^{しあわ}せになれ
本当^{ほんとう}は一本^{いっぽん}道^{みち}の迷^{めい}路^ろを散^{さん}々^{ざん}迷^{まよ}って
人^{ひと}は歩^{ある}くよ
理^り由^{ゆう}はな^{あし}くとも足^たは出^ですよ
そうすりゃそれ^{りゆう}が理^り由^{ゆう}になるもん
き^{ぜったい}っとき^{ぜったい}と絶^{しん}対^{たい}だよ絶^ぜ対^{たい}だ信^{しん}じ
なきや

1. あのね、私実は気付いてるの
ほら、君がいったこと
あまり考えたいと思えなくて
忘れたんだけど
盲目的に盲動的に妄想的に生きて
衝動的な焦燥的な
消極的なままじゃ駄目だったんだ
きっと、人生最後の日を前に思う
のだろう
全部、全部言い足りなくて惜しい
けど
ああ、いつか人生最後の日、
君がいないことを
もっと、もっと、もっと
もっと、ちゃんと言って
あのね、空が青いのって
どうやって伝えればいいんだろう
ね
夜の雲が高いのって
どうすれば君もわかるんだろう
言って
あのね、私実はわかってるの
もう君が逝ったこと

あのね、わからず屋って言うんだ
ろうね
忘れたいんだけど
もっとちゃんと言ってよ
忘れないようメモにしてよ
明日十時にホームで待ち合わせと
かしよう
牡丹は散っても花だ
夏が去っても追慕は切だ
口に出して 声に出して
君が言って
そして人生最後の日、君が見える
なら
きっと、人生最後の日も愛をうた
うのだろう
全部、全部無駄じゃなかったって
言うから
ああ、いつか人生最後の日、君が
いないことがまだ信じられな
いけど
もっと、もっと、もっと、もっと
もっと、もっと、もっと、君が
もっと、もっと、もっと、もっと
もっと、ちゃんと言って

1. もしもあなたが雨に濡れ
言い訳さえもできないほどに
何かに深く傷付いたなら
せめて私は手を結び
風に綻ぶ花になりたい
もしもあなたの夢破れ
行き先のない日々は暮れゆき
信じることさえできなくなれば
せめて私が声にして
明日に揺蕩(たゆた)う歌をうたお
う
花のように花のように
ただそこに咲くだけで美しくあれ
人はみな人はみな
大地を強く踏みしめてそれぞれの
花心に宿す
例えこの身が果てるとも
戦(そよ)ぐ島風願いに染まれ
花のように花のように
ただ風に揺れるだけのこの生命
人と人また人と人
紡ぐ時代に身をまかせ
それぞれの実が穢(けが)れなればと

花のように花のように
ただそこに咲くだけで美しくあれ
人は今人は今
大地を強く踏みしめてそれぞれの
花心に宿す

1. 静寂を切り裂くよう訪れたのは

必然としての邂逅僕等の為に

後悔を嘆く瞳に映る君はそう

憂いを纏って美しく咲いた

誰かの生命に溶ける花

ねえ君も見えるだろう

きっと

重ねた過ち塗り替えるよう

何度でもいいさ繰返していくス

タートライン

過去とは違う明日を

二人だけの希望描くスタートライ

ン

I never say good bye

いつだってそうさ

継続していく証明としての結晶

仄かに揺れる灯を宿して

光彩を放つ未来焼付けた君の瞳は

少し悲しそうで

Take a look into my eyes

最後の一滴を拭って

Every time you wanna see call me

最初に出会ったあの場所でさ

散り行く運命に抗って

そう鮮やかに咲き誇れ

Always

君の詠う声と繋がるよう

心の奥鳴り響いた僕の音

祈りに浮かぶ明日は

生きる意味を希望に変えるから

I wanna be with you

二度とは無い今の現実を

手に入れる為の犠牲なんて

決して孤独と決別仕切れない

今の僕に計れない

それでもいいんだ

響き渡れ祈りよ

木霊する僕らの歌声

一寸の光を描いた

照らし出す一輪の花よ

君と二人手を繋いで

ずっといたいんだ

重ねた過ち塗り替えるよう

何度でもいいさ繰返していくス

タートライン

過去とは違う明日を

二人だけの希望描くスタートライ

ン

I never say good bye

いつだってそうさ

15

美しく燃える森
TOKYO SKA PARADISE

と まと まと と あざ ちょう ひと
1. 戸惑い纏って飛んだ鮮やか蝶を独

り

しず み かな つ
静かに見つめてた悲しみを連れて

で ぐち な もり いり ぐち
出口無くして森の入口

から つ さみ
絡む付く寂しさで

か っ こう まよ
格好つかないで迷っていたよ

たば ふ めん ひら ふ な て
束ねた譜面を開き不慣れな手つき

でWoh

かな き
奏でたピアノから聞こえてくるの

は

よ と こえ で か
呼び止める声出掛けの「さよな

ら」

つき よる
かけてゆく月の夜

か い すう じ み きみ
変わり行く数字見つめる君に

ひ もり なか
火をつけて森の中

と ちょう み よ し
飛べなくなる蝶見つめて酔い痴れ

ていようか

かえ
帰るとせずにはなそうとしない

お ま よる うつく もり
終わり待つ夜とこの美しく森

み
ひとつだけ見えていた

よ ぞら ほしくず め ざ
夜空の星屑目指していくよ

め かく もり なか
目隠しで森の中

もと たび で か きみ わす
戻らない旅に出掛けて君を忘れよ

うか？

と と き まよ こ
止まらない時を迷わず焦がして

ほのお も つ
く炎で燃やし尽くしてくれ

1. 逃げたりあきらめるコトは誰も
一瞬あればできるから歩き続けよ

う

君にしかできないコトがある青い

星に

光がなくせぬように

つかめ！描いた夢を

まもれ！大事な友を

たくましい自分になれるさ

知らないパワーが宿るハートに火

がついたら

どんな願いも嘘じゃない

きつかなうから...Show me your

brave heart

晴れの日ばかりじゃないからたま

に

冷たい雨もふるけれど傘ひろげよ

う

生き方に地図なんかないけどだか

ら自由

どこへだって行ける、君も

はしれ！風より速く

めざせ！空より速く

新しい自分に逢えるさ

知らない勇気が眠るハートに気が

ついたら

胸の中のとしゃ降りも

きつと止むから...Show me your

brave heart

つかめ！眩しい明日を

まもれ！愛する人を

たくましい自分になれるさ

こわせ！弱気な君を

くずせ！ぶつかる壁を

熱い鼓動武器になるから

Believe in your heart

17

1998
Lamp

1. 静かに雨降る夜会話さえ忘れるく

らい

きょう ひ お とも
今日の日が終わる灯るうえ まち
フロント ガラスの上きらめく街の

かける

なが お
スローにただ流れ落ちるゆめ なら まど べ とお あめ ぞら
夢を並べた窓辺遠く雨空みみ す はこ
耳を済ましてradioメロディー運

ふstereo

きみ し せん さき なに み
君の視線の先には何が見えるまばた あいだ あい とど
ちょっと瞬きの間そっと愛を届け

るよ

じ かん と
時間が止まるほどにhoneyきのう さわ きょう いと か
昨日の騒がしさ今日の愛しさに変

わ

きみ す す
君のこと好きさ好きさまど そと なが どうきょう
窓の外流れる東京にさようならをゆび きざ みみ かざ め
指で刻むハイハット耳飾り揺れるよこ かお
横顔ひび すき ま おだ み
日々の隙間が穏やかに満たされて

く

まばた あいだ あい とど
ちょっと瞬きの間そっと愛を届け

るから

ひとみ

瞳をそらさないで

みみ す

耳を済ましてradioメロディー運

ふstereo

きみ し せん さき なに み
君の視線の先には何が見えるふたり
きっと二人このままでずっとこう

していたいね

おも で

思い出になってもhoney

1. 夏の終わりの水平線と甘い潮風
髪を短く切ったばかりの方を通り
過ぎた
海辺を走る貨物列車が運んできた
メランコリー
貝殻の中格下涙と口づけのプロ
ローグ
海よりも青い人夏の
今、カーステレオから流れ出すメ
モリーズ
波の音君の歌う声
夏の終わりの黄昏時がとても寂し
いと
風に飛んだ麦わら帽子の影を追っ
かけた
浜辺を走る赤いペディキュア漣を
編んでゆく
忘れかけていたお伽話のマーメイ
ドのエピローグ
海よりも深い人夏の
あー、追憶の彼方聞こえてくるの
は
波の音君の歌う声

いつかはこんな風に終わることわ
かっていた

短い季節

泡の粒は海のそこへ消えていった
もし、君が魚でも見つけられると
何度も読んだ名前
今はどこで歌っているの